

## 6. 共に助け合う自主防災組織の大切さ

### (1) 自主防災組織の必要性

#### ① 自主防災組織とは

災害による被害軽減のためには、行政による公助の取り組みには限界があり、地域における自主防災組織の取り組みがとても重要となります。

自主防災組織は、自主防災の基本である「自分たちの地域は、自分たちで守る」という、自分たちのまちや、自分たちの隣人を災害から守るための、地域で助け合う自主的な共助の防災組織です。

災害が発生したら、救出・救助活動、初期消火などの初動対応は、住民自身が協力し合って行うことが重要です。

春日部市では、市と地域が一体となり、地域の組織同士が連携した防災への取り組みを進めることが必要であることから、春日部市自治会連合会加盟の自治会を単位として、自主防災組織の結成を推進しております。

平成28年4月1日現在、199自治会中196自治会で、自主防災組織を設立しております。

#### ② 自分たちの地域を守る自主防災組織

◆ 阪神・淡路大震災の教訓から、大規模災害が発生した際には、消防や警察、自衛隊などによる災害対応（公助）が遅れがちとなり、救助・救援機能に限界があることが明らかになりました。

◆ 阪神・淡路大震災では、倒壊した家屋に閉じ込められた人たちの約8割が近隣の住人によって助け出され、消防や警察、自衛隊が助け出したのは約2割でした。

このことから、大規模災害が発生したら、救出・救助活動、初期消火などの初動対応のほとんどは、地域住民の皆さんが協力して防災活動を行うことで多くの命を救うことになります。

◆ 「自分たちのまちは自分たちで守る」という自主防災の基本に基づき、地域で自主防災組織という共助の仕組みをしっかりと講じなければなりません。

### ③自主防災組織の班編成

自主防災組織は、基本的に会長・副会長・班長を中心とした組織体制であり、概ね下の図のような役割別の班構成となっています。

訓練を通じて必要な見直しを行いながら、地域の実態に応じた適切な組織体制をつくりましょう。

災害時には、臨機応変に弾力的な運用や指揮ができるよう対策を考えておきましょう。

#### ■基本的な班編成例

組織の基本的な班編成例		
編成班名	日常の役割	災害時の役割
総務班	全体調整 他機関との連絡調整 災害時の要配慮者の把握	全体調整 他機関との連絡調整 被害・避難状況の全体把握
情報班	情報の収集・伝達 広報活動	状況把握 報告活動
消火班	器具点検 防火広報	初期消火活動
救出・救護班	資機材調達・整備	負傷者等の救出 救護活動
避難誘導班	避難路(所)・標識点検	住民の避難誘導活動
給食・給水班	器具の点検	水、食糧等の配分 炊き出し等給食・給水活動

(総務省消防庁「自主防災組織の手引き」より)

#### ④自主防災組織の活動

自主防災組織では、大規模な災害が発生した際、地域住民が的確に行動し、被害を最小限にするため、普段からの防災活動や災害時における防災活動を行います。

実際に地震が発生した際には、情報の収集、初期消火活動、人命救助、被災者の救護、避難誘導、避難所の運営等といった活動を行うなど、非常に重要な役割を担っています。

平常時には、日ごろから地域内の安全点検や住民への防災知識の普及・啓発、防災訓練の実施など地震被害に対する備えを行います。

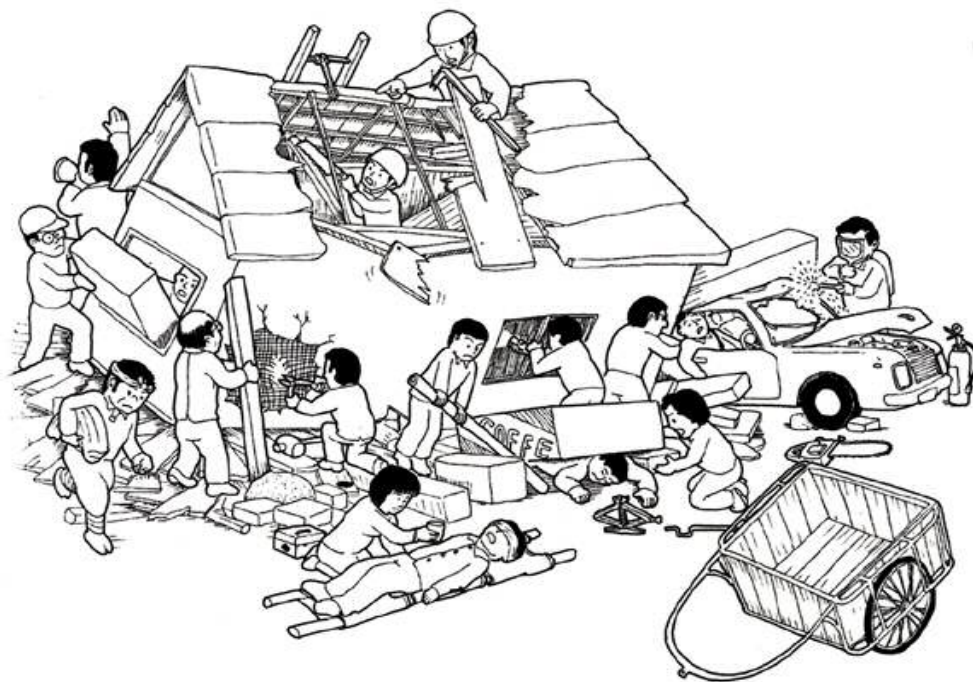
地域の防災活動は、皆さん自身や家族の安全確保を前提とし行われるものでありますので、各家庭での備えがとても重要となります。

### (2) 災害時の防災活動

#### ①災害時における防災活動

災害時には、地震発生からの推移により状況が変化するため、時期に応じた的確な活動が求められます。

自主防災組織では、次の活動例のように地震の発生直後、発生から数時間、数日後の防災活動が重要となっております。



## ■災害時の自主防災活動例

### 地震発生からの時間経過と自主防災活動例

経過時間	状況	個人の行動	自主防災活動
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・身を守る</li> <li>・出口の確保</li> </ul>	
1～2分後	揺れがおさまる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出火防止</li> <li>・初期消火</li> </ul>	
3分後		<ul style="list-style-type: none"> <li>・家族の安否確認</li> <li>・隣近所に声をかける</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・隣近所で助け合い</li> </ul>
5分後		<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報確認</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報班による被害情報収集</li> <li>・市町村からの情報を住民へ正しく伝達</li> </ul>
10分後 ～数時間	火災の発見 家屋の倒壊発見 負傷者の発見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・みんなで消火活動</li> <li>・みんなで救出活動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・消火班による初期消火</li> <li>・救出・救助班による救出活動</li> <li>・負傷者の応急救護</li> <li>・救護所への搬送</li> <li>・災害時の要配慮者の避難の支援</li> </ul>
～数日		<ul style="list-style-type: none"> <li>・自主防災組織に協力して避難生活を</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市町村に協力して避難所運営</li> </ul>

## ②地域の防災活動による人命救助

大規模災害では、家屋の倒壊等により建物等の中に人が閉じ込められてしまい助けが必要となってきます。

災害発生直後は、自主防災組織における隣近所の方々が力を合わせて、倒壊建物等の中から大切な命を救うため、人命救助の活動が大変重要です。

災害現場では、「黄金の72時間」という言葉があります。72時間以内に助け出さないと、助かるはずの命も助からなくなるという意味です。下のグラフは、阪神・淡路大震災の際、神戸市消防局が救助した人の数で、網掛けが生存救出、白は助け出した時点で命が失われた方の数です。

これを見ると、一刻も早く助け出すことが、いかに重要かがわかります。

◆日別救助人員状況



※発災日時:平成7年1月17日午前5時46分

(データ:神戸市消防局)

### ③避難所の運営（37ページ、活動体制整理表【地震編】参照）

大規模災害時に、自宅の建物が全壊・半壊などで被災し、自宅での生活が困難となった方は、避難所において一時的な避難所生活をするようになります。

震度5強以上の地震が発生した場合には、市の一時避難場所担当者が、直ちに避難所に向かいます。施設の安全確認や避難者状況を把握し、災害対策本部と各自治会長と協議、調整のうえ、避難所を開設しますので、各自治会長や自主防災組織会長、役員の方は、可能な限り速やかに避難所に集合してください。

開設された避難所では、自主防災組織や避難者が協力して、避難者で構成する避難所運営委員会を設置し、自主運営をしていくことが基本となります。運営委員会で決められた避難所ルールに従って、水・食料・生活物資等の提供、情報の提供・交換・収集、トイレなどの衛生的環境の管理、健康の確保など、避難所でのコミュニティを形成、維持していくことが求められます。

## （3）平常時の防災活動

自主防災組織では、普段から各種行事や防災訓練などに参加して、地域の皆さんが顔の見える良好な関係を築いておくことが大切です。

### ①地域ぐるみの防災意識の高揚

地域の自主防災訓練をはじめ、お祭りや運動会、清掃活動など人が集まる機会を利用して、地域住民の防災に関する知識の啓発に努めましょう。

### ②防災訓練

災害に備えて、毎年、自主防災訓練を実施し、人命救助、安否確認、炊き出しなど、防災活動がスムーズに実施できるように、繰り返し訓練を実施しておくことが重要です。

市では、自主防災訓練の企画等に関して事前に訓練相談を行い、地域の状況に合わせた訓練を実施できるように、訓練種目をメニュー化し、自主防災組織の訓練支援を実施しております。

<訓練例>

地震体験訓練、初期消火訓練、  
情報収集・伝達訓練、避難訓練、  
救出・救護訓練、炊き出し訓練、  
災害図上訓練、安否確認訓練など





### ③要配慮者の所在確認等

高齢者や障がい者など、災害時に自力で身の安全を確保することや避難することが困難で、かつ災害について十分な情報を得られない人を「要配慮者」と言います。

災害時において、地域内の高齢者や障がい者などの要配慮者の安否確認や避難誘導等を実施していくため、日頃から要配慮者の所在確認等を実施して、声をかけ合える関係をつくっておくことが要配慮者支援の第一歩です。

### ④消防団・事業所等との連携

地域における消防団や事業所等は、災害や事故が起きた場合、地域の自主防災組織と協力して防災活動を行って、被害の軽減に努めていただくために大切な存在となります。

そこで、普段から消防団や事業所等と連携して、地域の防災活動に参加していただくなどして、災害時には、人命救助活動などを実施するとともに、資機材や空スペースなどを提供していただける協力関係を築いておきましょう。

### ⑤女性の視点から防災を考える

自主防災組織の日頃の活動や災害時の対応においては、「女性の視点」からの防災を考える必要もあり、自主防災組織の役員には女性の方を登用することにより、女性に配慮したきめ細やかな地域の防災対策の実施が期待されます。

### ⑥地域内の災害危険等の把握

被害の軽減には、自分たちの住む地域にどのような危険があるのか、どんな人が住んでいるのかを知ることです。

皆さんと一緒に地域を回り、あらかじめ実態の把握をして、地域の安全点検をしていくことが被害の軽減につながります。

また、地域内の危険箇所などを把握したら、その状況を盛り込んだマップを作成しておくこと、実際に災害が発生した場合に、大いに役立ちます。



## (4) 防災リーダーの人材育成

自主防災組織には、地域における防災活動を効果的に実施していくため、防災に関する基本的な知識や技術を身に付けている防災のリーダー的な存在が必要となります。

防災に関する人・組織がしっかりしていることが、地域防災力の向上につながる大切なことです。

そのため、各自主防災組織においては、防災リーダーの人材育成に関して、研修講座や防災講演などを積極的に受講し、防災に関する知識・技術等を修得した、防災リーダーを養成しましょう。

### <防災リーダーとして望まれる方>

- ・ 防災に関心が高い。  
(防災対策の経験があればよい)
- ・ 行動力がある。・ 地域において人望が厚い。
- ・ 自己中心的でなく、地域住民のために考えられる。
- ・ 多数意見を取りまとめ、また、少数意見を尊重できる。
- ・ 非常時の現場の状況を取り仕切る力がある。
- ・ 他人に声をかけ、活動に参加させる力がある。



## (5) 防災資機材等の整備

自主防災組織では、防災活動を実施するため、防災資機材は重要であり、必要なものです。地域の状況にあった防災資機材を整備することが大切です。

地域によって必要な防災用資機材は異なりますので、地域の皆さんで話し合い、自分たちの地域で必要な資機材の整備をしましょう。



また、整備した資機材はリストを作成し定期的に点検をするとともに、地域の防災訓練等で実際に利用し使い方を確認しましょう。

整備する防災資機材に迷ったときは、市に相談してください。



# 防災資機材等一覧表

防災活動に必要とされる防災資機材等の具体例です。

防災資機材等	
1	<p>＜情報収集伝達・避難誘導用具＞</p> <p>ハンドマイク、メガホン、携帯用無線機・受信機、携帯用ラジオ、投光器、強力ライト、懐中電灯、カンテラ、コードリール、警笛、腕章、誘導旗（衣）、災害用掲示板、情報収集用テレビ、音響機器</p>
2	<p>＜初期消火用具＞</p> <p>消火器（薬剤詰替含む）、水バケツ、消火用具収納箱、可搬式小型動力ポンプ式等、消防用ホース</p>
3	<p>＜救出用具＞</p> <p>ロープ、スコップ、大工道具、ハンマー、バール（大・小）、ジャッキ、なた、ペンチ、梯子、エンジン・カッター、チェーンソー、角材、斧、防塵マスク、防塵メガネ</p>
4	<p>＜救護用具＞</p> <p>担架、テント、救急セット、毛布、シート、救急箱、三角巾、車イス、AED</p>
5	<p>＜給食・給水用具＞</p> <p>鍋、釜、コンロ、飯合、給水タンク、配膳用食器、非常用食糧・飲料水、ろ過水機、クーラーボックス</p>
6	<p>＜安全保護用具＞</p> <p>ヘルメット、防災ずきん、防火衣、手袋、防災活動服、雨具</p>
7	<p>＜水防用具＞</p> <p>救命ボート、救命胴衣、防水シート、スコップ、くい、土のう袋、かけや、つるはし、一輪車</p>
8	<p>＜その他の防災資機材＞</p> <p>防災倉庫、簡易収納庫、リヤカー、カメラ、発電機、警戒標識、雪かきスコップ、簡易トイレ、トイレ、トイレトーパー</p>
9	<p>＜訓練実施に要する物品＞</p> <p>炊き出し用品、燃料、軍手、訓練会場看板類</p>
10	<p>＜組織運営に要する事務用品類＞</p> <p>防災関係図書、防災意識啓発品、複写機、文房具等の事務用品類</p>